

【薬局向け】活用例

過去の薬剤情報を閲覧することで相互作用を回避した事例

情報提供元：ナチュラルローソンクオール薬局神田鍛冶町二丁目店/ 東京都

年 齢

30歳代

性 別

男性

診療科

耳鼻咽喉科

介入項目

薬剤変更

事例概要

改善要因

過去の薬剤情報を確認

概 要

- 患者アンケートの併用薬と実際の併用薬が異なること発見し、相互作用を回避した初来局の患者の事例。クラリスロマイシン錠200mgが処方されていた。
- 患者の新患アンケートでは併用薬にゾピクロンと記載されていたが、マイナンバーカードを持参していたため過去の薬剤情報を閲覧したところ、他院から別の睡眠薬のレンボレキサントが処方されていることがわかった。
- お薬手帳の持参がなかったため、薬の外觀を見せ確認したところ、ゾピクロンと記載したことは誤りで、実際にはレンボレキサントを服用していることがわかった。
- 服用中のレンボレキサントは代謝酵素CYP3Aで代謝される薬剤であるが、処方されたクラリスロマイシンはCYP3Aを阻害作用があるため、レンボレキサントの作用を増強させるおそれがあった。
- 処方医に疑義照会し、クラリスロマイシン錠200mgから、CYP3A阻害作用のないセフカベンピボキシル塩酸塩錠100mgに変更となった。

マイナンバーカードを活用した過去情報閲覧により、
併用薬との相互作用を回避することができた。